



ビル・ボイドRI会長を囲んで。  
向って右側、2006-07年度 ロータリー財団管理委員長 ルイス・ビセンテ・ジアイ氏（アルゼンチン）  
左側、RI事務総長 エドウィン・H・フタ氏（米国）

## 親睦から生まれる強い絆で感動の奉仕

ロータリーの奉仕の精神は 100年を超えて健在です。  
165カ国以上に120万人の会員を有し  
人々の暮らし、環境の改善に専心する  
私たち地球村のリーダーの姿があります。

地区大会でもお話いただきましたが  
世の中がこれ程複雑で、非人間的になる中  
ロータリアンはその地域社会に何ができるのか  
どんな援助ができるのかを 自ら問いつづけ  
活動を推進してゆかねばなりません。

身近な問題から はるかかなたの世界の援助にまで  
常に献身してゆかねばなりません。

今日まで、私たちロータリアンは力を合わせ  
思いやりをもって、人々の暮らしを改善する  
大きな力を創造してまいりました。

それぞれの時代、その歴史背景に照準を合わせた  
数々の善行があったからこそ  
また、その時代に適合した創造力があったからこそ  
100年余のロータリーの歴史が存在するのだと思います。

皆様は 地区大会を終えられてこの月信をご覧いただいていることと存じます。  
多くのご参加いただいた方々に厚くお礼申し上げます。  
地区大会では地域性豊かな、クラブごとの特色を  
見事に生かした多くの奉仕の実績をご報告いただきました。  
あらためて2650地区の底力のすごさと  
日本で最大数を誇る96クラブのパワーを目にいたしました。

このように皆がベクトルを合わせ活動できてこそ、その効果が大きくなります。  
そのために、まずロータリアン同志の親睦が大切です。  
そこに生まれる絆が大切です。

私は地区大会の大役を無事終えまして  
その感動さめやらぬまま  
今一度、親睦から始まった1世紀前のロータリーの発祥に  
思いを馳せておるところです。

国際ロータリー第2650地区

ガバナー 平井義久